

霧矢大夢退団特別企画・TOKK紙面で振り返る

霧矢大夢 History

4月22日の月組東京宝塚劇場公演「エドワード8世」『Misty Station』千秋楽をもって宝塚歌劇団を退団することが決まっている月組トップスター・霧矢大夢さん。もうすぐ始まる宝塚大劇場公演を前に、霧矢さんが登場したTOKK紙面と共に、これまでの歩みを振り返ってみよう。

略歴

1994年『火の鳥』で初舞台。翌年1月、花組に配属。1996年『ハウ・トゥー・サクシード』（第1部）で新人公演初主演を務める。1997年9月に月組に組替え、2002年には『SLAPSTICK』でバウホール公演単独初主演。2010年中日劇場公演『紫子』『Heat on Beat!』で月組トップスターに就任。

©宝塚歌劇団

2000年2月15日号 Close UP! この人に注目!



早くから実力派の男役として注目され、入団2年目に花組で新人公演初主演。月組に組替え後の『ノバ・ボサ・ノバ』新人公演では、単独初主演とは思えぬ舞台度胸を見せて話題をさらった。2000年には、宝塚歌劇のベルリン公演に参加が決定。舞台の本場ヨーロッパでの公演に「求められるレベルは相当高いと思う」と言いながらも、「宝塚歌劇は私たちだけにしか表現できない、オリジナルなものだとも思っていますから、国内と同じスタンスで思い切り演じるつもりです」と海外公演への意欲を語っている。

2004年10月1日号 歌劇スターの素顔



順調にキャリアを積んでいた2003年夏、病気のため約2カ月の休養を余儀なくされるものの、無事年内に復帰。宝塚歌劇が90周年を迎えた翌年には、瀬奈じゅん・水 夏希ら各組の男役スターとともに、組の枠を超えて特別出演する企画に参加。花組公演『La Esperanza』に出演し、大人の男・ファビエルを演じた。「大人の男性らしさを出すのは難しいのですが、あまり構えたり考え込んだりせず、自然体でいようと思っています」と語る言葉からは、男役として充実期を迎え、さらなるステージを目指す意識が感じられる。

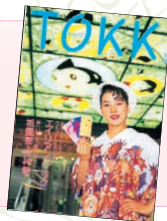
2010年5月1日号 Takarasienne Interview



月組トップスターとしての宝塚大劇場お披露目公演は『THE SCARLETT PIMPERNEL』。持ち前の歌唱力で、海外ミュージカルならではの躍動的なメロディーを歌い上げ好評を博したが、インタビュー時は実績のある作品の再演に「新たなスタートを切る私たちがどこまでできるのか…と不安に思った時期もあった」とその心中を赤裸々に語っているのが興味深い。主演という立場には「常に主役を演じられるのは舞台人として大きな喜び」と、プレッシャーを感じるだけでなく、向上心を持って舞台を楽しみたいという思いを明かした。

TOKK初登場! 1994年7月号表紙

記念すべきTOKK初登場は入団1年目の夏。時を同じくオープンした「手塚治虫記念館」のエントランスをバックに微笑む姿が初々しい。幼い頃大好きだったという『リボンの騎士』や『ユニコ』との再会に、「懐かしいなあ〜。今度ゆっくり見にこよう」と胸を弾ませていた様子。



霧矢大夢という人は真面目に舞台に向き合ってきた人なのだろう。こうしてTOKK紙面を振り返っていても、常にその言葉の端々から、舞台人として、男役としての矜持を感じる。“芸の道には終わりがなく、追求すれば追求するほど難しくもある——”昨年10月に行われた退団記者会見でそう語った言葉どおり、宝塚最後のその日まで芸を磨き、男役の終着駅へと向かう姿を見届けたい。